

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

駅家中学校区	校番21	福山市立駅家中学校
最終更新日	2026年(令和8年)4月1日	

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	課題発見・解決力	コミュニケーション力	挑戦する力
各校の授業の様子や学校評価を元に話し合いを行い、教職員の勤務の状況等も踏まえながらよりよい中学校区を目指した協議を行うことができた。CS開始に向け、これまでの取り組みを活かし、具体的な実践を考えていく。	○進んで挨拶をする児童・生徒が増えた。 ○基礎学力や家庭学習の定着が課題であり、「書く力」が十分でない。 また、学力差が大きい。 ○中学卒業時の姿をイメージして学びを進める力が必要 ○メディアの使用時間等、自己コントロール力が必要である。	めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	～よりよく生きる～ ○自律…自分で考え、判断し、決定して行動できる ○尊重…多様性を認め、自分と他者を大切にできる		
		中学校区として 統一した取組等	○「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」を研究テーマとする。 ・学力調査から課題解決に向け具体的な手立てを研究し、授業を改善する。 ・自分の考えや思いを深める交流の場を作り全員参加の授業づくりを目指す。		

III 自校

学校教育目標
よりよく生きる力の育成 ～自律と尊重～

現 状
<児童生徒> ・昨年度と比べて不登校の数は 10 名弱減少。しかし、新規の不登校と不登校傾向の生徒が6名増加。 ・自らすすんであいさつをしている割合は、80%以上である。 ・「毎日楽しく」学校に通っている割合は、80%以上である。 ・1日、SNSを2～3時間以上の利用生徒が約50%である。 <授業> ・「授業で考えることはおもしろい」83%、「授業で解決しようとする課題について、なぜだろう、やってみたいと思える生徒」71%と生徒が授業や課題に対して意欲的になれるような展開にできていない。 ・「帯学習を通して、わからないところがわかるようになった」78%、「帯学習を通して、学んだ内容を復習することができた」77%と確かな学力を定着させるための取り組みを継続する必要がある。

育成する力 資質・能力		課題発見・解決力	コミュニケーション力	挑戦する力
めざす 子ども 像	低	○身近な問題に対して疑問を持ち、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割に責任を持つ力 ○自分の考えを伝える力	○学級・学年や家族の一員であることを自覚し、主体的に学ぶ力
	中	○地域や社会の問題に対して、持っている知識を関連付けて考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割や言動に責任を持ったり、助け合ったりする力 ○自分の考えを伝え、相手の考えを比較しながら聞く力	○学校や地域の一員であることを自覚し、主体的に学んだり難しいことにもチャレンジしたりする力
	高	○様々な問題に対して、持っている知識や経験等をフル活用して考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割や言動に責任を持ち、共感的に聴きながらアイデアや知識を共有し深める力	○地域・社会の一員であることを自覚し、持続可能な社会に向け、主体的に学んだり困難に立ち向かったりする力
	1年	○他者と協働し課題解決に向かうことができる。	○他者との関係を協調的に築こうと意識し、関わるができる。	○失敗を恐れず、困難に立ち向かう態度を養おうとしている。
	2年	○根拠を持って他者と協働し、課題解決に向かうことができる。	○他者との関係を協調的に築き、相手意識を持った関わりができる。	○失敗や困難から学び、自分の人生をよりよい方向へ導こうとする態度を養おうとしている。
	3年	○根拠を持って主体的に他者と協働し課題解決に向かうことができる。	○主体的に他者との関係を協調的に築き、相手意識を持った関わりができる。	○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている
研究	テーマ	「全員が熱中できる授業づくり」～確かな学力の定着を目指して～		
	内容等	・授業において無我夢中になる五つのポイントを入れ込んだ指導・支援。 ・求められている資質、能力や学力を確実に身につけられる指導・支援。		
めざす授業の姿		(1) 授業に参加する子ども・大人が熱中する授業 (2) たしかな学力が確実に身につく教材研究・授業		

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	主体的・対話 的で深い学び を通じた、学 力の定着	★	継続	主体的に学びに 向かい、粘り強く 学び続ける授業 づくり	・ものの見方、考え 方を働かせるこ とができる授業 設計を意識し実 践する。また、無 我夢中になる5 つの条件を組み 込んだ熱中でき る授業を展開す る。 ・常学習を1か月単 位で仕組む（国 語・数学・英語） ・生徒の理解度に合 わせた個別最適 な学習を支援す る。	・「授業内容はよく わかるか」90% 以上 ・「教科は好きか」 80%以上 ・「授業内容をさら に深めたいか」 80%以上 ・各種調査の市平均 以上（全国学力学 習状況調査、福山 市学力学習状況 調査、実力テスト）									
4	生徒が成長を 実感できる学 校づくり		継続	一人ひとりが認め られ、満たされる集 団づくりの推進	・生徒会や生徒が主 体的に活動できる 場を設定する。 ・不登校生徒等への 確実な会議の実施 し相談体制を構築 する。 ・細やかな家庭連携 を行う。	・不登校生徒の新規を 「0」人にする。 ・不登校生徒の年間の 人数を「15」人以 下にする。 ・毎月、委員会前には 担当教員と生徒会 の生徒で協議会を もち、意味ある委員 会にする。									
4	保護者・地域 に信頼される 学校づくり		継続	地域・保護者が満 足できる学校	・家庭との連携を迅速 に丁寧に行う。 ・HPやすぐーを 活用し生徒の活 動の様子が分か る効果的な情報 発信を行う	・「安心して通わせ ている」保護者 90% ・「学校の様子がよ くわかる」80% 以上									
4	教職員が元気 で、生徒に向 き合える学校 づくり		継続	業務改善と働く 環境を整え、成果 へ結びつける	・業務を精選し、本 質的に大切にす る部分を明確にし、全職員で共通 認識を持つ。 ・風通しのよい職場 風土を形成し、よりよい連携、効率的な仕事の進め 方を行う。	・「仕事にやりがい を感じている」 100% ・「困ったときに相 談できる人がい る」100%									

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家中学校

〔達成評価の評価基準〕

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

〔総合評価の評価基準〕

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。